

甲府市議会「公明党」行政視察報告書

報告者 植田年美

① 実施日時

令和元年 7 月 2 5 日（木）～ 2 6 日（金）

② 視察先・視察内容

千葉県我孫子市「子ども発達センターにおける支援について」

千葉県我孫子市「保育園の待機児童ゼロ堅持について」

千葉県柏市 「フレイル予防について」

千葉県柏市 「動物の愛護及び管理に関する条例について」

③ 参加者

「公明党」 4 名

（兵道顕司、中村明彦、長澤達也、植田年美）

④ 視察報告

（1）我孫子市「子ども発達センターにおける支援について」

（報告者：植田年美）

実施日時 7 月 2 5 日（木）

対応者

我孫子市こども発達センター 三澤由紀子様・糸沢弘行様

〒270-1112 千葉県我孫子市新木1637

Tel 04-7188-0472 fax 04-7199-3013

●我孫子市の概要

人口 令和元年7月1日現在 132,380人

0歳から18歳まで 4,973人

千葉県の北西部、都心から30キロに位置し、面積43.15km²の市域は南北に4～6km、東西に14kmと東西に細長い自然に恵まれた台地である。若い世代に移り住んでもらい、ずっと住み続けてもらうため、子育て支援をはじめとしたさまざまな定住策に取り組み、若い世代に魅力あるまちづくりを進めている。



*子ども相談課は、障がい部局に属するのではなく「子ども部」の中で、すべての子どもが健やかに安心して育つことができるように、ライフステージに応じた一貫した支援を目指すことを基本理念として

4つの基本視点

- 1) 子どものライフステージに応じた一貫した療育・教育支援
- 2) 子どもの将来と自立に向けた発達支援
- 3) 家族を含めたトータルな支援
- 4) 子どもと家族にとって身近な地域における支援

5つの目標

- 1) 早期発見の促進
- 2) 療育支援の拡充
- 3) 家族支援の充実
- 4) 地域支援の構築
- 5) 教育支援の拡充

以上の基本的な考え方のもとにすすめられている。

*我孫子市での障がい児とは、

診断がつく児童はもとより、診断がつきにくいが対人関係や集団行動（特に一律的や画一的な行動や場面をかき乱す等）の特性がある子どもや、性格や個性の範囲内と考えられ、診断はつかないが、乱暴・忘れっぽい・早合点・不器用などいわゆるグレーゾーンといわれる支援が必要と思われる子どもとしている。

*まとめ

心理士が巡回する、すくすく学習会（民間の放課後デイなども含めた学習会）をはじめとした、市単独のサービスが充実している。

「1歳半で気づいて2歳児が最も療育効果が上がる」とターゲットとしている。更には、3歳児検診での発見をチャンスとし、市独自で行っている5歳児検診が最終チャンスと、積極的に早期発見する姿勢に感銘を受けた。

特に、早期発見の工夫として啓発活動のためにセンターが作成したパンフレットには、家族がセンターに相談の「電話1本かける勇気」を促している点も当局の熱意を感じた。

小学校への就学時には、センターから全小学校に引き継ぎ会を行っていることも注目に値する。

最後に、「つながりのある職員が各部局へ移動して発達支援の流れを展開している」との言葉に我孫子市の子育て支援の力強さを垣間見る思いがした。

④視察報告

（２）我孫子市「保育園の待機児童ゼロ堅持について」

- ・実施の経過、効果、課題について
- ・実施に伴う市民の反応
- ・希望の聴取方法について
- ・公平性の確保について

上記のような質問をもとにご説明をいただいた。

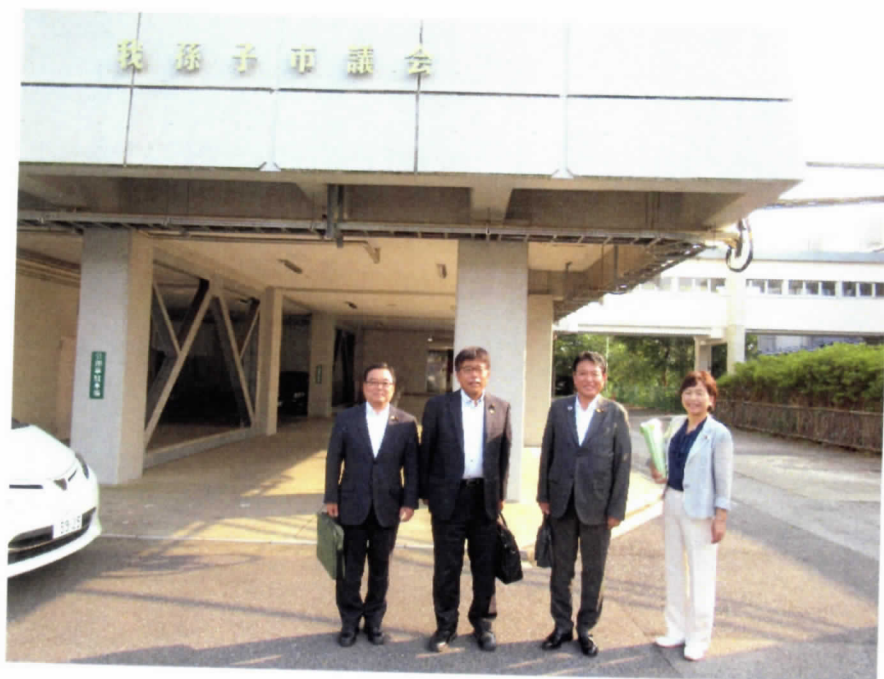
「働きながら子育てしやすい環境をつくる育住近接」をテーマとしている。大規模マンションへの保育所等の併設を進め、送迎の時間が短縮され、さらに子育てと仕事の両立がしやすくなることが特徴の一つだと感じた。

特に、入園希望をする各施設に保護者が直接申し込み、各施設で面接・内諾を得て、その後保護者が保育課に書類を提出、入園が決定するという私立保育園・認定こども園などの流れの説明を伺った。

*まとめ

首都圏のベッドタウンである我孫子市ならではの施策の展開だと感じた。他市で行っているようなサテライト的な、駅で子どもを預けて出勤する方法ではなく、それぞれの園や施設と保護者が顔を見て情報を確認後、出勤する日常は大切だと実感した。大規模マンション建設時の保育所設置のヒントも、今後リニア開通に向けて参考になった。





④視察報告

(3) 柏市「フレイル予防について」

実施日時 7月26日(金)

対応者

柏市 地域包括支援課 高木貴子様・高木美和様

〒277-0004 千葉県柏市柏下65-1

TEL 04-7167-2318

●柏市の概要

人口 平成31年4月1日現在426,224人

東京都心部やつくば研究学園都市、成田空港、幕張新都心などから30キロ圏内に位置し、道路や鉄道の交通条件に恵まれた都市である。

特に柏駅周辺には近隣都市からの来訪者も多く、約237万人の商圏人口を有しており、活気にあふれたまちとして知られている。

多くの大学、学術、研究機関等の集積があり公・民・学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市を目指した新しいまちづくりを展開、平成23年には「環境未来都市」、「総合特区」に指定されている。

●「フレイル予防について」

- 1) 実施の経過
- 2) 実施に伴う市民の反応
- 3) 「フレイル予防」の普及について
- 4) 参加募集の方法について

以上を中心に質問、説明をうけた。

*フレイル予防事業のパイオニアともいえる柏市。平成28年には、「柏フレイル予防プロジェクト2025」という推進体制を整備し、まちづくりのために各部局が推進部署となった。平成29年には「かしわフレイル予防ガイドブック」を作成し、フレイル予防サポーター連絡会を立ち上げ、横の連携も図れる施策の展開も始まった。

現在サポーターは養成講座6期生107名をこえる登録者となり、推進に活躍されている。

*まとめ

フレイル予防で、市民の健康のみでなく、まちづくりを進める柏市の画期的な施策の展開に感銘を受けた。地域包括から各地のサロンへと裾野を広げ、東京大学の「柏スタディ」に則り着実に事業が推進されていることは学ぶ点が大きかった。

④ 視察報告

(4) 柏市「動物愛護及び管理に関する条例について」

実施日時 7月26日(金)

対応者

柏市動物愛護ふれあいセンター所長 竹田雅一様

同所 獣医師 落合詩織様

柏市保健所総務企画課 次長・総務企画課長 能崎 勉様

〒277-0924 千葉県柏市風早2-4-3

TEL 04-7190-2828

●柏市動物愛護ふれあいセンター

- 1) 条例制定の経過、効果、課題
- 2) 制定に伴う市民の反応
- 3) 動物愛護の意識醸成への取り組みについて
- 4) 譲渡希望者とのマッチングについて

以上の点を中心に質問・説明を受けた。

* 動物の収容と殺処分数は年々減少している。猫の不妊去勢手術の助成事業をはじめ、動物愛護フェスティバル、愛護教室、飼い方し

つけ方教室の開催などが功を奏していると感じた。殺処分ゼロには、課題もあるが啓発ちらしなど積極的に取り組まれている。

*まとめ

動物愛護ふれあいセンターの施設見学なども行う中で譲渡も積極的に行われている。センターが作成したチラシにあった一行、

「殺処分ゼロのために、みなさんが出来ること、ありませんか？」

のとおり、市民のみなさんと一緒に進む姿勢に大変感銘を受けた。



柏市の先進的なフレイル予防の取り組みは、多くの学ぶ点が多かった。

動物愛護、殺処分0を目指すための施策